

# 青春スクロール

## 母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

### 自由を謳歌 個性輝かせ目指した未来

慶応高校（塾高）OBには、経済界で活躍する人も多い。

セイコーホールディングスCEOの服部真二（62、1971年卒）は、塾高の自由闊達な雰囲気を感じている。高2の時、教室の前の席に動物写真家の星野道夫（故人、71年卒）がい



同窓会会長として70周年記念事業に忙しい服部

## 慶応高校 2

た。「これからオーストラリアに動物の写真を撮りに行くんだ」。期末試験の最終日にサンドバッグのような大きなかばんを持ってきて、試験が終わるとそのまま海外へと出かけた。「みんな個性豊かだった」

星野リゾート代表の星野佳路



「高校ではアイスホッケー以外にも関心を持った」と星野

（55、79年卒）は「唯一、目標がはっきり持てなかった時期」と振り返る。アイスホッケーをしていたが、中学時代ほど熱中できず、映画や海に遊びに行くなど自由を謳歌した。同時に「自由には責任が伴う」と感じ

た時期でもあった。「塾高時代



「その場その場で最善を尽くしてきた」という玉塚

の不完全燃焼が、大学でのホッケーや今の仕事のエネルギーにつながった」と振り返る。

ローソン社長の玉塚元一（53、81年卒）はラグビー部だった。

2年の県大会決勝で10-20、3年では準決勝で12-21で負けた。花園に行けなかった悔しさをバネに、慶大4年の関東対抗戦で優勝を果たす。「ラグビーでチームワークを学んだ。一人ひとりが目標に向かい、役割を最大限果たす。ラグビーとビジネスは一緒」と言う。

日本交通社長の川鍋一朗（44、89年卒）はスキー部に入った。「経営の勉強のため」に部全体を取り仕切る主将になりたかったという。主将にはなれなかつ

たが、合宿で代役を引き受け、天候を見ながらリフトに乗る時間などを決めた。「これで全員

の一日が決まると思うとゾクゾクしましたね」

社長として新江ノ島水族館の経営に尽力する堀一久（49、85年卒）は野球部だった。3年では副将。夏の神奈川大会で4年ぶりに初戦突破した。「慶大で野球を続けるなら、もっと勉強しなければ」と中学時代に通



高校、大学と野球に明け暮れた堀

た塾の自習室を借り猛勉強。「自己管理して目標に向かう、という経験を積めた」と言う。

ほかに元経済同友会代表幹

事の北城恪太郎（71、63年卒）やトヨタ自動車社長の豊田章男（59、75年卒）らがいる。

塾高は2018年に70周年を迎える。記念事業として同窓会の協力のもと、伝統を重んじつつ多様な個性を生徒に発揮してもらおう「日吉協育モデル～正統と異端の協育」を目指し、大学生や留学生、企業や地域の人らと交流できる新教育棟を建設する計画。世界を舞台とする人材育成のための基金もつくる。